

# Toshio Honjo

彩鳳堂画廊 本庄俊男

## 「国立メディア芸術総合センター」の消滅と必要性（その2） 無限の資源への資本投資を

文化は国の骨幹に関わるものです。日本の経済的發展が成熟期から停滞期にある現状を考えると、歴史的な発想の展開が必要である。資源が乏しい我が国は、近年生産要素の弱体化と、それにより第二次産業の衰退が目立ちます。一方で、メディア文化におけるコンテンツ産業は、培った知的財産と最先端技術を武器にして、ソフトの活性化を促す事で無限の資源を生み出す。文化産業を活用させ世界に発信すると、新たな資本体系を確立する事が出来ます。

元来我々は文字を持たない民族であった。しかし、漢字文化を取り入れ話し言葉に当てはめ、日本独自のかな文字を創案普及させ、更には絵画をも媒体として利用し、優に二千年以上の長きに亘る継続した歴史を経て、世界に誇る文化国家を築きあげた。最近でも我々が利用している携帯電話メールの

“絵文字”等は諸外国には例が無く、一目で意志や感情までを伝達出来る表現方法を広めたのは、日本が誇る知的文化力の成果といえます。ここに来て、此の文化力において、チャイナパワーや韓流パワーの台頭と行動力の前に、既に「J」パワーの脆さが見えてきている。このままだと「国立メディア芸術総合センター」を実現させなかった判断は、後々大いに悔いる事でしょう。

国内に於いてもソフト面で深刻な事案があり、人材面から見て現状は暗い影が覆い始めている。出版界の不振から、一部の人気作家ばかりが優遇を受け、若手マンガ作家が苦難にさいなまれ育ってこない。またアニメーターにいたっては、現在では作業自体がコンピューターによる制作に移行し、仕事が専門化・細分化される事から多忙を極めても、大部分の年収は200万円以下であり、生活苦から30才前後で使い捨ての如く離職せざるを得ないのが現状である。現実に、マンガ家やアニメ関係者に自殺者が異常に多い惨状を重く受け止め、対策にあたらなければならない。

「国立メディア芸術総合センター」に付いては、文科省は違う角

度から見直し精査するとしていますが、意見の大半はソフトとヒューマンに重点を置くとの事だ。この件は、ハード面の充実こそが最優先で、設備が整った施設を実現させる事が何よりも大切です。つまりは姿形を見せろと言う事です。其処には必ず情報が集まり効率的に蓄積され、おのずとソフト面は充実し、将来へのアーカイブ事業にも対応出来ます。人材育成の面でも、魅力ある施設が稼働し始め、発表の場を与えるコンクール展等の開催や、最先端技術を駆使した展覧を続けければ、豊富な話題を喚起し、優れたアイデアを持つアーティストが育つでしょう。また、エンターテインメントを含めた「メディア芸術総合センター」を目指す、建物自体が魅力的であれば、諸外国からも注目されて観光資源にもなり得る。

「国立メディア芸術総合センター」の運営については、民間コンテンツ企業の協力も得て、展覧会方式等を取り入れると良い。たとえば上野の森美術館の『井上雄彦展』は雨の日でも行列が出来、御台場の『ガンダム』展覧も、50日間で415万人の観覧者を魅了して、あの『興福寺阿修羅展』に会場した96万人の4倍以上を記録している。他にも『TOKYOゲームショウ2009』が、4日間で18万5千人の観衆を集めたのは記憶に新しい。つまりは魅力ある企画展示を手掛ければ採算面でも心配は無いという事です。

此処で忘れてならない事は子供達の存在である。「オタク文化」を

広めたのは子供達の環境であった。大人が子供から教えられた文化である事を再認識しなければ成りません。その中に独創的な思想や芸術的発想、さらには強いメッセージが込められ豊かな創造力に寄って、世界も感動し受け入れたのです。だからこそ未来を担う子供目線の施設計画・運営を考慮に入れる必要があるのです。

既報に寄ると、香港ではアジアにおける「文化的なハブ化」を目指し、一大文化拠点建設に向けて40ヘクタールに及ぶ広大な敷地を確保した。さらに10月8日より「アジア文化協力フォーラム」を開催し、日本を含め十カ国が参加している。その会議中「国立メディア芸術総合センター」計画の消滅の事が触れられ、茹國烈・芸術発展局行政総裁は「日本の経験から、文化施設を造るときには内容や観客を育てる予算も必要と学ぶべきだ」と話した事が報じられ、何か皮肉めいて聞こえなくもない。

新政権下で、行政刷新会議・事業仕分け人の判断は、芸術には国の関与は不要と言いつつ、科学技術は事業凍結や予算削減で切り捨ててしまった。国のビジョンは考慮せず、長期的展望は一切無駄として自分達のパフォーマンスに終始した仕分け人とは呆れるばかりだった。つまりは、国力を剥ぎ日本の未来を抹殺してしまったのだ。本来なら、これらの国策は一刻の猶予もなく実行し、芸術・科学文化産業の象徴的な国家戦略拠点を造り上げなければ国家的な展望はあり得ません。

